

令和8年度 発生予察情報	発生予報第6号（概要版）	令和8年9月 16 日発行 宮城県病虫害防除所 (TEL:022-275-8982)
-----------------	---------------------	--

品目	病虫害名	発生予報	病虫害名	発生予報
きゅうり	褐斑病	発生量: やや多	べと病	発生量: やや多
ねぎ	黒斑病・葉枯病	発生量: 多	さび病	発生量: やや多
	べと病	発生量: やや多	シロイチモジヨトウ	発生量: やや多
	ネギハモグリバエ	発生量: やや多	—	—

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。 宮城県病虫害防除所 https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/ 次回、発生予報第7号の発行日は令和8年10月21日(水)の予定です。 ★宮城県病虫害防除所から『メルマガ』で 発生予察情報の発表をお知らせしています★	  宮城県病虫害防除所 メルマガ トップページ 登録フォーム
--	---

令和8年度 発生予察情報	発生予報第6号 ーきゅうりー	令和8年9月 16 日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	-----------------------	----------------------------

ー10 月中旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:9月9～11 日

天候予報:仙台管区気象台9月 10 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
褐斑病	ー	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び発病葉率は平年並であった(/ ±)。
- (2) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量は平年並か高いと予報されている。(/ ± ～ +)

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	ー	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年並(/ ±)、発病葉率はやや高かった。(/ +)
- (2) 多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量は平年並か高いと予報されている。(/ ± ～ +)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・発生はほ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。
- ・施設周辺の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm 目合い)を設置する。
- ・ウイルス病の発病株は、見つけ次第抜き取り施設外へ搬出し適切に処分する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

(2)褐斑病、べと病

- ・多発してからの防除は困難なので、予防防除に重点をおいた薬剤散布を実施する。
- ・肥料切れや着果過多、樹勢の低下は発病を助長するため、適切な栽培管理を行う。
- ・褐斑病、べと病は多湿により発生が増加するので、整枝・摘葉で群落内部の通気性を確保するとともに適切な湿度管理を行う。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー10 月中旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:9月8日～11 日

天候予報:仙台管区气象台9月 10 日発表

1 発生予報

病虫害名	発生時期	発生量
黒斑病・葉枯病	ー	多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発病株率及び発病度は平年よりやや高かった。(/ +)
(2)多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量は平年並か多いと予報されている。(/ ± ～ +)

病虫害名	発生時期	発生量
さび病	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発病株率及び発病度は平年並であった。(/ ±)
(2)15～20℃前後の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ ー ～ ±)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/ ± ～ +)

病虫害名	発生時期	発生量
べと病	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発病株率及び発病度は平年並であった。(/ ±)
(2)15～20℃前後の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ ー ～ ±)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/ ± ～ +)

病虫害名	発生時期	発生量
シロイチモジヨトウ	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、寄生株率は平年並であった。(/ ±)
(2)高温少雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/ +)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/ ー ～ ±)

病虫害名	発生時期	発生量
ネギハモグリバエ	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、被害株率は平年よりやや高く(/ +)、被害度は平年並であった。(/ ±)
(2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/ +)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/ ー ～ ±)

※予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・ いずれの病害虫也多発してからでは防除が困難になるため、発生初期の防除に努める。
- ・ 病害虫の薬剤抵抗性発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

(2) 黒斑病・葉枯病、さび病、べと病

- ・ 多湿（降雨、滞水）により発病が助長されることから、排水が悪いほ場では明きょを設けるなど、排水対策を行う。
- ・ 草勢が衰えると多発する傾向があるので、適正な肥培管理を実施する。
- ・ 葉枯病の黄色斑紋病斑は、平均気温が 15～20℃、曇雨天で発生しやすい。また、肥料切れにより草勢が衰えることでも発生が助長されるため、適期収穫を行うとともに、収穫前に薬剤防除を実施する際は、収穫前日数に注意して薬剤を選定する。

(3) シロイチモジヨトウ

- ・ 卵塊やふ化直後の幼虫の集団を早期に見つけ、捕殺する。
- ・ 幼虫がねぎの葉身内へ食入して薬剤がかかりにくくなるため、被害を確認したら直ちに防除を実施する。また、中齢幼虫期以降になると薬剤が効きにくくなるため、若齢幼虫期のうちに薬剤散布を行うよう努める。
- ・ 10 月までは場への飛来が続くことがあるため、こまめにほ場を見回り早期発見に努め、必要に応じて薬剤防除を行う。

(4) ネギアザミウマ、ネギハモグリバエ

- ・ ほ場内及びほ場周辺の雑草は、これら害虫の発生源となるので除草に努める。
- ・ ネギアザミウマはウイルス病を媒介することがあるので、ほ場を観察し適切に防除を行う。
- ・ 近年、従来のネギハモグリバエと異なり、著しい食害痕を呈するバイオタイプ B の発生が広域で確認されているため、防除を徹底する。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム